

# ホタテガイ養殖管理情報

## 異常貝の原因は病気ではなくケガです

### 1 ホタテガイのへい死メカニズム

- ① 玉付けをし過ぎた不安定な施設では、波浪の影響を大きく受けることから、調整玉の影響により養殖施設や籠が上下動します(図1)。
- ② 1週間以上シケが連続し、餌を取れないと、小さい貝ほど弱って貝殻を閉じれなくなるため、貝同士のかみ合わせや籠の擦れが多くなって、外套膜(ヒモ)がケガをし、異常貝となります(図2)。
- ③ また、鰓(エラ)が傷害を受けると、ワタ抜けになり呼吸や餌を取ることができなくなります。
- ④ 軽傷であれば回復しますが、ワタ抜けや重傷の異常貝はへい死する危険性があります。
- ⑤ なお、水温が低い場合は、餌を取り込む能力が低下するため、へい死の危険性がさらに高まります。

※調整玉：養殖施設の目印用の浮球  
底玉：浮力調整用の浮球

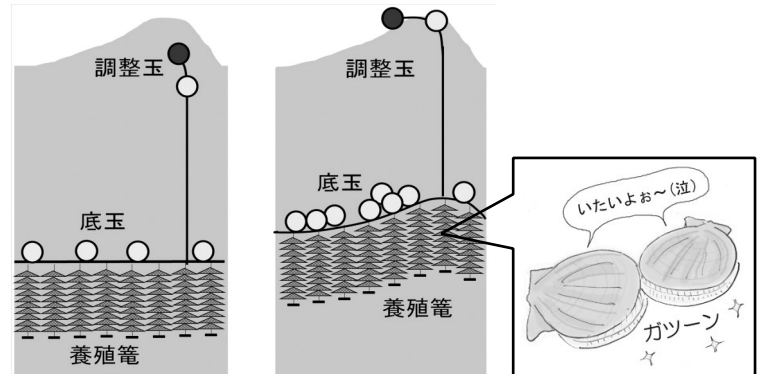


図1 安定した施設(左)と不安定な施設(右)におけるホタテガイのぶつかり合いのイメージ

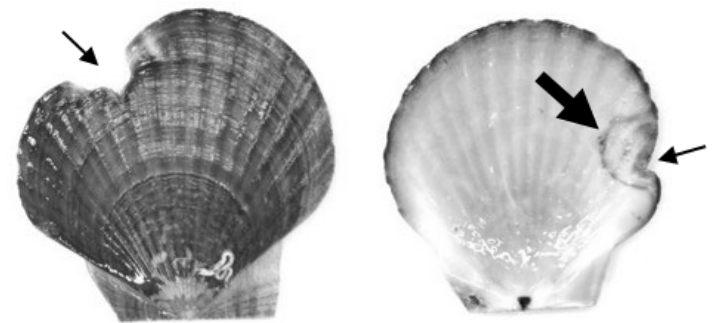


図2 異常貝(細い矢印は欠刻、太い矢印は着色)

### 2 冬季における養殖管理の注意点

**異常貝の原因は病気ではなくケガです。**これから冬のシケが多くなるので、ケガのない元気なホタテを育てるために、以下に注意しましょう。

#### ①調整玉の箇所数を少しでも減らす

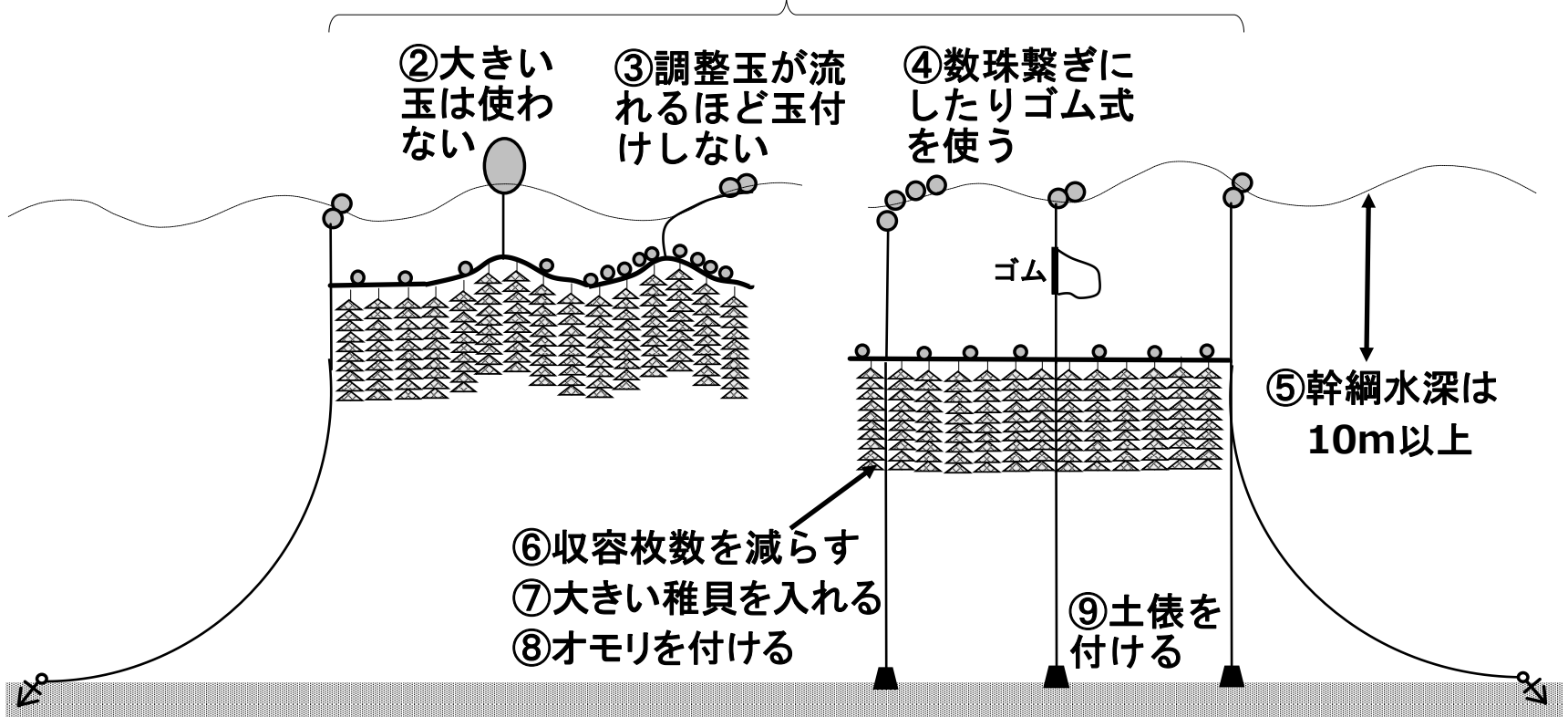


図3 養殖施設のイメージ(左が不安定施設、右が安定施設)

